第二回 国際海洋環境デザイン会議

「OCEAN BLINDNESS ー私たちは海を知らないー」
エキシビションやワークショップを同時開催！

drawn by NAOTO FUKASAWA
「深澤さんの思い描く海とは何ですか?」と聞かれた瞬間に1本の横線を描きました。
それは単なる横線だけれども、この活動の中で見ると水平線に見えます。

「海と人とを学びでつなぐ」をテーマに、2015年の創立以降、海洋教育とデザインを融合しながら実践的なプログラムを提供している一般社団法人3710Lab（代表：田口康大）は、日本財団との共同開催で2023年9月29日 （金）～10月9日（月・祝）まで、六本木のアクシスギャラリーにて「OCEAN BLINDNESS ー私たちは海を知らないー」をテーマに、「第二回 国際海洋環境デザイン会議」及びエキシビションを開催します。

地球の70%以上を覆う広大な海。あまりにも広く大きな海の存在ゆえ、私たちはその全貌をいまだ捉えることができません。それどころか、高度に都市化する暮らしの中で海とのつながりはさらに遠のいてしまっています。
その現状を「OCEAN BLINDNESS ー私たちは海を知らないー」と位置付け、海の可能性や魅力を探求することから深刻化する海洋問題まで、さまざまな論点と視点を「デザイン」の座標を持って向き合うための「第二回 国際海洋環境デザイン会議」及びエキシビションを開催します。

第二回目となる本会議では、OCEAN BLINDNESSを乗り越えるためにデザインができることを探ります。その一つとして、第一回から参加する深澤直人、倉本 仁、we+とともに実践してきた海洋環境デザインワークショップの成果を報告します。また、ドットアーキテクツ+コンタクト・ゴンゾ、本多沙映、COMPANY（Aamu Song & Johan Olin）など新たなクリエイターたちによる海とのつながりを多様な方法で体験するワークショップを実施。会議の終盤には、私たちが知っている海／知らない海について確認し、参加者とともにOCEAN BLINDNESSについて考えを深めていきます。さらに視点を深めるために写真家の津田直を迎え、海と人との関わりの源流を探るフィールドワークの話から、海を「知る」ことについて考えます。

同時開催となるエキシビションでは、海産物、海洋プラスチック、廃棄物、海洋文化など、多様な海の世界を表現する海洋環境デザインのプロダクトや建築の他、海洋環境デザインワークショップで立ち上がった作品を展示。会場構成はwe+が行います。

開催概要

会議概要

名称　第二回 国際海洋環境デザイン会議
　　2nd International Conference on Design for Ocean Environments
開催日　2023年9月29日（金）〜10月9日（月・祝）
開館時間　10:00〜20:00（9月29日は16:30〜21:00、最終日10月9日は15:00まで ）
休館日　無休
会場　アクシスギャラリー　東京都港区六本木5-17-1 AXISビル4F　https://center.axisinc.co.jp/
入場　無料
主催　3710Lab（みなとラボ）
共催　日本財団
特別協力　THE DESIGN SCIENCE FOUNDATION
協力　アクシスギャラリー、アルテック、スカンジナビアン・リビング、博展、ハーマンミラー、武蔵野美術大学

エキシビション概要

名称　第二回 国際海洋環境デザイン会議 「OCEAN BLINDNESS ー私たちは海を知らないー」展
会期　2023年9月29日（金）〜10月9日（月・祝）
開館時間　10:00〜20:00（9月29日は16:30〜21:00、最終日10月9日は15:00まで ）
会場　アクシスギャラリー　東京都港区六本木5-17-1 AXISビル4F　https://center.axisinc.co.jp/
入場　無料
主催　3710Lab（みなとラボ）
共催　日本財団
特別協力　THE DESIGN SCIENCE FOUNDATION
協力　アクシスギャラリー、アルテック、スカンジナビアン・リビング、博展、ハーマンミラー、武蔵野美術大学

開催にあたって

OCEAN BLINDNESS ー私たちは海を知らないー

過去に類を見ないほど暑い今年の夏。 国連事務総長のグテーレスは「地球沸騰化」という言葉を用いて、この異常な状態に警鐘を鳴らしました。人類が経験したことのない夏。そこに大きく影響を与えているのが、海です。

海は、私たち生命を生存可能にする存在。 豊かな生き物を育み、物流の大きな要となり、エネルギーの宝庫でもある海は人間の営みそのものです。 一方で、海は地球上の最大の未踏の地であり、多くの可能性を秘めながら私たちはそれに気が付いていません。 私たちが海をみているとき、それは海のほんの一部なのです。

みなとラボは、大きすぎて見えていない海、見えているようで捉えきれない海について、「OCEAN BLINDNESS」という言葉をテーマに「デザイン」を通して紐解いていきます。

ご参加にあたってのお願い

・ドットアーキテクツ+コンタクト・ゴンゾ、COMPANY(Aamu Song & Johan Olin)、本多沙映によるワークショップは事前申し込みが必須となります。（詳細は3P以降をご覧ください）
・会場は入場自由となり、展示をご覧いただきながらプログラムへの参加や聴講が可能ですが、座席の準備のため事前申し込みにご協力ください。
・参加ご希望の方は、下記申込フォーム（もしくはQRコード）よりお申し込みください。
https://forms.gle/mCu1J3adcNbzUzeYA
・プログラムについては3710LabのHPでもご覧いただけます。https://3710lab.com/news/5744/
・参加者多数になった場合は受付を締め切らせていただくことがございます。

SCHEDULE および会議プログラム、登壇者のご案内

9月29日（金）

16:30〜　開場・内覧会

17:45〜　**開会挨拶（一般社団法人3710Lab代表：田口康大）**

18:00〜　**日本財団常務理事：海野光行　対談「海と人との関わりをデザインする（仮）」**

「次世代に豊かな海を引き継ぐ」ために多様な事業を展開する日本財団。新しい時代を創るプロジェクト開発や戦略的パートナーシップの構築、社会課題に向き合うための取り組みの工夫、海洋とデザインとのつながりについて話します。

19:00〜　**深澤直人による公開ワークショップ「私の思い描く海」**

この夏、全3回の日程で行っているデザイナーを対象にした海洋環境デザインワークショップのDay3を公開実施します。プロダクトデザイナーの深澤直人とともに、参加者それぞれが思い描いた「海」のデザインが完成。成果物を発表し、その「海」について話し合います。

21:00　終了・閉館

9月30日（土）

10:00〜　開場

13:00〜　**ドットアーキテクツ＋コンタクト・ゴンゾによるトーク＆ワークショップ「The Storm」**

作品制作についてのレクチャーの後、来場者の皆さんと身体を使って「海」をつくりだします。私たち自身が海を想像して波をつくることはどのような体験をもたらすか。六本木に「海」が現れます。
ワークショップへの参加は事前申込制、定員15名。※参加受付中

15:00〜　**we+ワークショップ実施報告「Materials From The Ocean」**

we+と学生2名が広島県呉市・江田島市の海岸をめぐり、さまざまな素材を採取。広島ならではの漁業や環境、郷土資料からインスピレーションを得て加工と実験を繰り返し、マテリアルの新たな可能性を検証しています。

15:45〜　**倉本 仁による今秋実施予定のワークショップ「The Ocean Camping―海から立ち上がる形―」に向けたクロストーク**

デザインを学ぶ学生、若いクリエイターたちと鹿児島県の離島、加計呂麻島におけるデザインキャンプで実施予定のワークショップ。先行リサーチの過程から見えてくる、各クリエイターの海に関する思考をトレードするトークセッションを行います。

16:30〜　**we+、倉本 仁、ドットアーキテクツ、コンタクト・ゴンゾによるトークディスカッション「海洋環境デザインはどう形作られるか？」**

海洋に向き合うクリエイターの育成を目指し行われる海洋環境デザインワークショップ。海と創作をつなぐ上で何が大事になるのでしょうか。ワークショップがどのように実施された／るのかについての話を聞きながら、海洋環境デザインのエッセンスを探ります。

17:30　終了

20:00　閉館

10月1日（日）

13:00〜 **COMPANY(Aamu Song & Johan Olin)によるトーク＆ワークショップ「Sea Shell Workshop」**

ヘルシンキを拠点にするデザインデュオ、COMPANY(Aamu Song & Johan Olin)が、世界の貝殻や海藻を素材に、生き生きとした海の生き物になれる特別なお面を製作するワークショップです。30分程度のトークもワークショップも見学いただけますが、ワークショップの参加は事前申込制、定員10名。※参加受付中

15:30〜 **本多沙映によるトーク＆ワークショップ「Diving Into Ama Culture ー海女文化に学ぶー」**

伊勢志摩でリサーチプロジェクトを進めてきたデザイナーの本多沙映は、海女が使う道具、スカリにフォーカス。既製品を組み込みながら、各々自分らしいスカリを作る海女の海の知恵をヒントに、自分と海をつなぐ道具を作ります。トークもワークショップも見学いただけますが、ワークショップの参加は事前申込制、定員10名。※参加受付中

17:30〜 **博展とwe+によるクロストーク　「仮設空間の装飾におけるサステナビリティと海洋資源の可能性」**

本展の会場構成を担当したwe+と博展によるクロストーク。博展からはサステナビリティを推進する白川陽一と鈴木亮介が参加し、資源循環や環境負荷の低減を踏まえたイベント装飾実現に向けた取り組みから見えた課題や考察を出発点に、海洋資源や海洋ゴミなどのイベント装飾活用の可能性を探ります。

18:30　終了

20:00　閉館

10月2日（月）〜10月6日（金）

10:00〜20:00　この期間中はご自由に展示をお楽しみいただけます。
トム・ディクソンによるオンライントークを開催予定。

10月7日（土）

13:30〜 **全体ディスカッション「海洋環境に向き合うデザインのアイデア」**

会議とエキシビションを振り返りながら、あらためて私たちは海について何を知り、知らないのか。参加者とともに「OCEAN BLINDNESS」についての考えを深め、これからの海洋環境デザインのアイデアを描きます。

16:00〜 **写真家・津田 直と3710Lab代表・田口康大によるトーク「Oceanscape As Dialogue」**

写真家・津田直とともに、海と人、その関わりの原点を探る――。我々は、フィールドワークを北海道・オホーツク海沿岸で実施。海、森、川、遺跡を訪れ、いにしえの人々が暮らした地に立ち、海を眺めました。過去に引かれたラインの上に立つことで見えてくる風景があります。この先、そのラインをどう現在へと繋げていくべきか。国内外のフィールドに赴き、撮影をしてきた写真家・津田直とみなとラボ代表の田口が語ります。

20:00　閉館

10月8日（日）〜10月9日（月・祝）

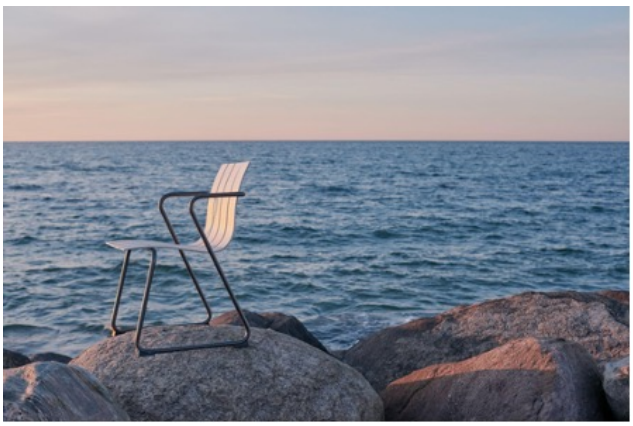
10:00〜20:00　会議やワークショップ開催の予定はありません。展示をお楽しみください。（9日のみ15:00まで）

＊最新のプログラム内容は決定次第、みなとラボのホームページやSNSで告知します。

ご参加にあたってのお願い

＊基本的に撮影は可能ですが、撮影をご遠慮いただくプログラムがある可能性があります。
　会場内でのアナウンスに従ってください。
＊本会議では、主催者による記録・広報等のため、イベントの写真撮影・録画・録音を行う場合がございます。
　予めご了承ください。

「OCEAN BLINDNESS ー私たちは海を知らないー」展　展示の一部ご紹介

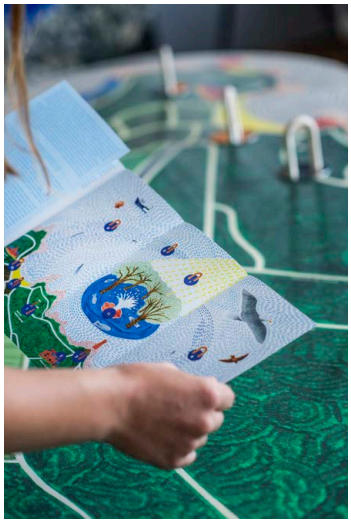


＜Mater, Ocean DIning Chair＞
デザイナー：Nanna and Jørgen Ditzel
デンマーク
提供：スカンジナビアン・リビング

＜Oceanix City＞
建築家：ビャルケ・インゲルス・グループ（BIG）
韓国
Image by Oceanix and BIG-Bjarke Ingels Group

＜Sea Monster＞
デザイナー：COMPANY (Aamu Song & Johan Olin)
フィンランド

＜Light Soy, Heliograf＞
デザイナー：Heliograf
オーストラリア

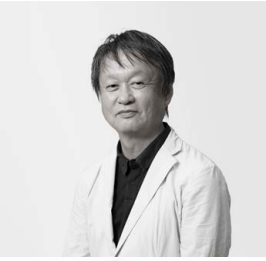


＜Tombolo ou l'Autre monde＞
デザイナー：Isabelle Daëron

フランス文化省
「モンド・ヌーヴォー・プログラム」
の一環として実施されたプロジェクト

フランス
Photo by Anne-Emmanuelle Thion

登壇者プロフィール



深澤直人　ふかさわ なおと　INSTAGRAM @naoto_fukasawa_design_ltd　@the_design_science_foundation
1956年山梨県生まれ。1980年、多摩美術大学プロダクトデザイン学科卒業。同年 セイコーエプソン入社。先行開発のデザインを担当。1989年渡米し、ID Two（現 IDEO サンフランシスコ）入社。シリコンバレーの産業を中心としたデザインの仕事に７年間従事した後、1996年帰国。IDEO東京オフィスを立ち上げ支社長として日本のデザインコンサルタントのベースをつくる。2003年独立し、NAOTO FUKASAWA DESIGNを設立。現在は、ヨーロッパ、北米、アジアなど世界を代表 するブランドのデザインや、日本国内の企業のデザインやコンサルティングを多数手がける。電子精密機器から家具、インテリア、建築に至るまで手がけるデザインの領域は幅広く多岐に渡る。 2018年、米ニューヨークのノグチ美術館（The Noguchi Museum）が創設した第５回「イサム・ノグチ賞」を受賞。多摩美術大学教授。日本民藝館館長。 https://naotofukasawa.com/　https://thedesignsciencefoundation.org/

倉本 仁　くらもと じん　INSTAGRAM @jinkuramoto
1976年兵庫県生まれ。家電メーカーのインハウスデザイナーを経て、2008年に東京目黒に『JIN KURAMOTO STUDIO』を開設。プロジェクトのコンセプトやストーリーを明快な造形表現で伝えるアプローチで家具、家電製品、アイウェアから自動車まで多彩なジャンルのデザイン開発に携わる。素材や材料を直に触りながら機能や構造の試行錯誤を繰り返す実践的な開発プロセスを重視し、プロトタイピングが行われている自身の "スタジオ" は常にインスピレーションと発見に溢れている。iF Design Award、グッドデザイン賞、Red Dot Design Awardなど受賞多数。グッドデザイン賞審査副委員長。 https://www.jinkuramoto.com

We+（林登志也　安藤北斗　関口愛理）　ウィープラス　INSTAGRAM @weplus.jp
リサーチと実験に立脚した独自の制作・表現手法で、新たな視点と価値をかたちにするコンテンポラリーデザインスタジオ。林登志也と安藤北斗により2013年に設立。日々の研究から生まれた自主プロジェクトを国内外で発表しており、そこから得られた知見を生かした、R&Dやインスタレーション等のコミッションワーク、ブランディング、プロダクト開発、空間デザイン、アートディレクションなど、さまざまな企業や組織のプロジェクトを手がける。Dezeen Awards / Emerging Design Studio of the Year Public Vote（英）、EDIDA / Young Designer of the Year Nominee（伊）、日本空間デザイン賞金賞他受賞多数。作品はドイツのVitra Design Museumなどに収蔵されている。 https://weplus.jp/

dot architects　ドットアーキテクツ　INSTAGRAM @dotarchitects.jp
建築家ユニット。大阪・北加賀屋にて、アート、オルタナティブ・メディア、アーカイブ、建築、地域研究、サークル、NPOなど、分野にとらわれない人々や組織が集まる「もうひとつの社会を実践するための協働スタジオ」コーポ北加賀屋を拠点にしている。設計だけに留まらず、施工、リサーチプロジェクト、アートプロジェクトなど多岐に渡って活動中。第15回ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展（2016）にて審査員特別表彰を受賞（日本館出展作家）。第２回小嶋一浩賞受賞。現在のメンバーは家成俊勝、赤代武志、土井亘、宮地敬子、池田藍、勝部涼亮、小林明日香の7人。 https://dotarchitects.jp/

contact Gonzo　コンタクト・ゴンゾ　INSTAGRAM @contact_gonzo
2006年結成。肉体の衝突を起因とする牧歌的崇高論を応用し、即興的なパフォーマンスや映像、写真作品の制作、マガジンの編集などを行う。多くの国際展や芸術祭などに参加し、観客とともに既存の価値観の転覆を計る集団である。現メンバーはNAZE、松見拓也、三ヶ尻敬悟、塚原悠也の4人。独自に製作した構造物でレモンなどの果物を時速100キロで撃つ事ができる。

本多沙映　ほんだ さえ　INSTAGRAM @sae_honda_
デザイナー/ジュエリーアーティスト。武蔵野美術大学工芸工業デザイン学科非常勤講師。既存の価値体系に詩的なアプローチでゆるやかに疑問をなげかけながら、オルタナティブな美意識を探究。自然と人工物の境界線が曖昧になりつつあるこの世界を俯瞰で見つめながら、新しい価値をかたちにしている。作品はアムステルダム市立美術館、アムステルダム国立美術館、アーネム博物館に永久所蔵されている。www.saehonda.com

COMPANY /Aamu Song & Johan Olin)　カンパニー　INSTAGRAM @com_pa_ny
フィンランド、ヘルシンキを拠点に活動するJohan Olin（ヨハン・オリン）とAamu Song（アーム・ソン）からなるアート、デザイン・ユニット。ヘルシンキで自身がデザインしたプロダクトを販売するショップ「Salakauppa」を手掛ける。2007年から伝統工芸との融合を試みるプロジェクト「Secrets」シリーズを開始。ミラノ・サローネやロンドン・デザイン・フェスティバルなど大規模な国際展にも参加。2010年にはフィンランドのデザイン分野で最も栄誉のあるフィンランド国家デザイン賞を受賞。 www.com-pa-ny.com

津田直　つだ なお
1976年神戸生まれ。世界を旅し、ファインダーを通して古代より綿々と続く、人と自然との関わりを翻訳し続けている写真家。文化の古層が我々に示唆する世界を見出すため、見えない時間に目を向ける。2001年より国内外で多数の展覧会を中心に活動。最近では、現代美術のフィールドを越えて他分野との共同制作や雑誌連載、講演会、特別授業も行う。主な展覧会に『SMOKE LINE－風の河を辿って』（資生堂ギャラリー、2008）、『エリナスの森』（三菱地所アルティアム、2018）、音楽家・原摩利彦氏との共作『トライノアシオト』（太田市美術館・図書館、2022）などがある。2010年、芸術選奨新人賞美術部門受賞。大阪芸術大学客員教授。https://tsudanao.com

海野光行　うんの みつゆき
日本財団常務理事。「次世代に豊かな海を引き継ぐ」をテーマに「海と日本プロジェクト」などの様々な事業を展開。国内外における、政府、国際機関、メディア、企業、大学、研究機関、研究者、NPO・NGO等とのネットワークを駆使してソーシャルインパクトを生み出し、地球環境問題をはじめ、海洋において国際的なイニシアティブを発揮できるよう、新しい時代を創るプロジェクト開発や戦略的パートナーシップの構築を進めている。

主催：3710Lab（みなとラボ）について　https://3710lab.com/ INSTAGRAM @3710lab

法人取得日：2016年10月27日
設立日：2015年4月1日
代表理事：田口 康大/兼任 東京大学大学院教育学研究科附属海洋教育センター特任講師

2015年、海洋教育の実践的なプログラムを開発・実施・提供するプラットフォーム として設立。海洋や教育、デザインなどの専門家と協働し、海洋教育とデザインを融合した実践的なプログラムを実施。環境問題や社会課題、地域のコミュニティ課題に向きあっている。

みなとラボ代表理事：田口康大(たぐち こうだい)
青森県生まれ。秋田県を経て、宮城県仙台市で育つ。現在、東京大学大学院教育学研究科附属海洋教育センター特任講師。教育学・教育人間学を専門とし、人間と教育との関係について学際的に実践研究を行っている。近年は、人間が生きる上での表現のあり方について考察し、学校の授業デザインや、学校を軸にした地域づくりを通して、新しい教育のあり方を探求している。

共催：日本財団について
ボートレースの売上金からの交付金を財源として、国境や分野を超えて様々な角度から社会課題解決をサポートしていく、日本最大の社会貢献財団。
市民、企業、NPO、政府、国際機関などさまざまな立場の人々と連携し、年間約1,000団体に対する助成事業や日本財団自ら推進する支援事業（自主事業）を実施することで、国内外の社会課題の解決に挑戦する。海洋・船舶に関する問題の解決、福祉や教育の向上、大規模災害の影響を受けた地域への復興支援や災害対策支援、人道支援や人材育成を通じた国際貢献など、多岐の分野にわたり活動を行う。https://www.nippon-foundation.or.jp/

「国際海洋環境デザイン会議」について
海洋と人間の共生に「デザイン」の分野から向き合い、アクションを起こすべく発足。海洋問題の解決や海の持つ魅力の探究などを行う世界の海洋環境デザインを共有し、国内外のゲストによるトークやワークショップなどを通して、参加者とともに海洋環境デザインのあり方について議論を行う。2022年7月に東京都渋谷区にて「第一回国際海洋環境デザイン会議」を開催。基調講演に深澤直人、登壇者に山野英之、we+、大城健作、倉本仁、Sarah K (Supercyclers)、土田貴宏、山田泰巨らを迎えた。

OCEAN BLINDNESS

国際海洋環境デザイン会議 DESIGN FOR OCEAN ENVIRONMENTS　みなとラボ 3710Lab　日本財団 THE NIPPON FOUNDATION

掲載に関するお問合せ先：HOW INC.
MAIL. pressrelease@how-pr.co.jp　TEL. 03-5414-6405

お客さまお問合せ先：3710Lab
https://3710lab.com/
MAIL. info@3710lab.com　TEL. 090-1997-6903（担当・田口）